

## 《単位互換提供科目詳細（シラバス）》

*科目 No.	2908
---------	------

## 科目概要記入欄

1. 開設大学	島根県立大学		開催方法	<input type="checkbox"/> 対面（ ）	
				<input type="checkbox"/> オンライン（同時・録画・資料提示）	
				<input checked="" type="checkbox"/> その他（ 未定 ）	
	2. 正式科目名 副題	企業会計		配当年次	2・3
			受入学年		
学問分野	番号	24	名称	社会科学系 商学・経営	
3. 担当教員名	池村 恵一				
4. 単位数	2単位	5. 開講学期	前期集中		
6. 開講期間 曜日・時間	2023年 9月 1日（金）～		2023年 9月 30日（土）		
	曜日 : ~ :				
7. 基礎知識の有無	・「基礎知識を必要としない科目」				
8. 募集人数	人	9. 選考方法			

10. 科目内容・授業計画	<p>会計は、企業経営にとどまらず、国や地方自治体などの公的部門においても、行政のアカウンタビリティー（説明責任）の向上やディスクロージャー（現状、活動内容、活動成果などに関する情報の開示）の充実を図る目的で重要な役割を果たしているといえます。会計は、企業や公的部門の組織の活動にかかわる重要なコミュニケーション・ツールとされています。学生諸君が卒業後どのような職業に就いても、会計の基本的な知識は、語学・ITとならび重要な役割を果たすことが期待されます。</p> <p>会計学は、簿記、財務会計、原価計算、管理会計、経営分析、会計監査、国際会計、税務会計、公会計、NPO会計など多岐にわたる領域を含んでいます。この授業では、とくに企業会計と位置付けられる財務会計を学び、そのあとで会計学の諸領域に広く目を向け、現代会計の基礎的な知識を修得していきます。</p> <p>*会計学を初めて学ぶ学生向けに、簿記の説明にも十分時間をとります。簿記を学ぶことで会計の意義をよく理解することができます。また、この授業を履修した後に基盤科目「会計学」を履修されると、「会計」についてより効率的に学習することができます。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・わが国の会計制度の全体的な構造を自己の言葉で説明できる。</li> <li>・会計学の諸領域に関する基礎知識を自己の言葉で説明できる。</li> </ul> <p>第1回 ガイダンス-会計とはなにか （キーワード） 会計情報のディスクロージャー、アカウンタビリティー</p> <p>第2回 歴史からみる会計学・簿記 （キーワード） 複式簿記の歴史</p> <p>第3回 基本財務諸表 （キーワード） 貸借対照表と損益計算書</p> <p>第4回 複式簿記① （キーワード） 財産法と損益法</p> <p>第5回 複式簿記② （キーワード） 取引と仕訳</p> <p>第6回 制度会計 （キーワード） 金融商品取引法会計、会社法会計、税法会計、トライアングル体制</p> <p>第7回 決算書の情報を分析する （キーワード） 財務諸表、経営分析</p> <p>第8回 決算書の情報を分析する（演習） （キーワード） 有価証券報告書のダウンロード、分析指標の計算</p> <p>第9回 会社の支払う税金① （キーワード） 税務（税法）会計、確定決算主義、所得金額の計算</p> <p>第10回 会社の支払う税金② （キーワード） 益金と損金、法人税額の計算</p> <p>第11回 監査① （キーワード） 財務諸表監査、監査人（公認会計士・監査法人）</p> <p>第12回 監査② （キーワード） 財務諸表の虚偽表示、会計監査の進め方、監査報告書</p> <p>第13回 会計に関する職業・資格試験</p> <p>第14回 プレゼンテーション①</p> <p>第15回 プレゼンテーション②</p> <p>**以上の授業計画については、若干の変更・修正の可能性があります。</p>		
11. 試験・評価方法	<p>成績評価対象：授業毎の課題提出 40%、試験 60%、プレゼンテーション 20% *授業の進行状況によってプレゼンテーションを実施できない場合があります。</p>		
12. 別途負担費用	<p>教科書は指定しません。レジュメ、関係資料等を集中講義初日に配布します。</p>		
13. その他特記事項	<p>【参考文献】 新井清光・川村義則、『新版 現代会計学〔第3版〕』中央経済社、定価：2,640円 *授業ではテキストを要約したレジュメを配付します。 **購入する場合は最新版のものを購入してください。</p>		
14. 社会人受講	科目等履修生（単位付与）として受け入れ	可	<input type="checkbox"/>
	聴講生（単位認定不要）として受け入れ	可	<input type="checkbox"/>

※コロナ禍の影響により、対面授業はオンライン（同時・録画・資料）へ変更になる場合があります。